

令和4年3月30日  
社会福祉法人 とらいふ  
ぐっどういる境南  
施設長 河野 裕子

## 令和3年度 第2回ぐっどういる境南 地域密着型認知症通所介護運営推進会議

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため書面開催といたしました

### 活動報告及び利用者状況

#### 活動報告

10月	作品展	音楽の扉、脳トレ	亜細亜大生体験学習 8月～、今年度も新型 コロナ感染症拡大防 止に伴い受入れ中止
11月	運動会	玉転がしゲーム、創作活動	
12月	クリスマス会	学生ボラ合唱クリスマスコンサート	
1月	新年会	ぐっどビクス、ゲーム	
2月	節分	鬼制作、朗読	
3月	ひな祭り	ミュージックセラピー	

#### 利用者状況（定員数12名）

	R3・2月		R3・8月		R4・2月	
登録者数	市内	16	市内	21	市内	21
	市外	4	市外	4	市外	1
男女別	男性	3	男性	6	男性	4
	女性	17	女性	19	女性	18
曜日別	月曜日	9	月曜日	11	月曜日	12
	火曜日	7	火曜日	10	火曜日	9
	水曜日	8	水曜日	9	水曜日	7
	木曜日	8	木曜日	10	木曜日	10
	金曜日	9	金曜日	11	金曜日	10
	土曜日	7	土曜日	9	土曜日	9

## 介護度別利用者数（人）

介護度別 利用者数	(R3・2月)		(R3・8月)		(R4・2月)	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
介護度 1	1	8	2	7	2	12
介護度 2	3	9	5	41	4	34
介護度 3	5	21	7	36	4	49
介護度 4	5	43	2	21	2	16
介護度 5	5	61	8	81	10	77
計	19	142	24	186	22	188

稼働率 60.3% 平均介護度 3.64

## 利用者月別増減（人）

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
中止	0	0	1	3	0	1	0	5
開始	0	0	0	0	1	2	1	4
登録数	24	24	23	20	21	22	23	23

## ひまわり報告

今年度後半も前半に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、感染対策を行っての受け入れとなりました。手洗い、うがい、マスクの着用、消毒、来所前の検温の徹底。密にならないように、ソーシャルディスタンスを図り、部屋の工夫を行っての受け入れ。プログラムの内容も密にならないようにすることを考慮しての実施とさせていただきます。

この1年で登録者数の変化は大幅に見られていないが、中止の方が出ているところを見ると、新規利用はあるものの、入所や入院で利用中止となるケースが同等にみられていると考えられます。

また、通所介護のお部屋で過ごしていただいていたが、個別対応が必要と感じる方の、認知症対応型の部屋への移行を3名ほど試みました。ケアマネージャーのプラン変更、ご家族の理解等、移行するには、準備やそこまでの過程を踏まないと、移行が難しく、長い方では半年かけての移行となっている。ご本人がお部屋に慣れることより、ご家族の理解に時間を要し、ケアマネージャーとの連携を持って勤めていくことが大切であると感じた。移行したことにより、個別対応や本人にあったプログラム、サービスの提供ができている。通所介護のお部屋では静かにされていた方が、ご自分から歌いたい歌を

リクエストされたり、お食事が召し上がれていなかったが、全量召し上がれるようになったりと、個別対応や少人数の部屋での自分の居場所づくりができ、表情が豊かになっている変化を確認すると、認知症対応型のサービスの提供の効果であったと考えます。

現在通所介護のお部屋で過ごされていても、認知症対応型のサービスがあっていると感じる方はそれなりにいらっしゃいます。移行を勧める難しさはあるが、ご利用者様ご本人がその人らしく過ごしていただくために、今後も認知症対応型のサービスの効果を伝え、ケアマネージャーとの連携を基に移行を勧めていきたいと考えています。

認知症の方にとって居心地の良い場所とは、環境の変化がなく、同じ場所で、同じ顔（職員）が望ましいこと、また、少人数の定員や個別対応を行えるということを考えてみると、地域密着型認知症通所介護の意義は大きいと考えられます。

認知症状の進行については、重度認知症（認知症自立度がⅢ以上）の割合が一年前の1月では38.2%であるのに対し、本年は38.5%と変わらず。全体的にみても稼働率はほぼ変化なく、伸び悩む現状です。その背景には、コロナ感染症の影響が全くないとは、考えにくいと思われます。コロナ感染症に罹患することを恐れ、緊急事態宣言やまん延防止措置が発令されている期間は休止し、通所を控える家族も見られている現状です。

そういう現状も踏まえ、以前に比べ、利用年数は短く、平均1年11か月。早い段階での、入所を考える家族が増えてきているものと思われます。

在宅医療の推進、介護の連携が行われている昨今、デイサービスにおける医療ケア対応者は年々増加傾向にあります。今年度もバルーンカテーテル留置、インシュリン注射、胃瘻の方々の受け入れを実施してきました。

デイサービス全体の延べ人数としては、バルーンカテーテル留置128名、インシュリン注射384名、胃瘻18名という実態となっています。

認知症対応型の部屋の方では、バルーンカテーテル留置3名。インシュリン注射1名。胃瘻1名。医療ケア対応者の受け入れは今後も看護師と調整をはかりながら実施していく予定です。